

1. 教育の責任

国際社会における様々な問題について、それがどのような問題なのか、なぜ起こるのか、どうすればよいのか、以上の 3 つの問いをめぐり、どん欲に知識を求め、真剣に、かつ粘り強く考え抜いて答えを見出そうと努める、真の意味で「意識高い」人間へと成長を遂げるよう、全力で学生諸君をサポートすることが使命だと考えている。

「国際 NGO の活動」（講義[オンデマンド型]、国際関係学メジャー必修科目、春学期、2 単位、受講者数 216 名）

「海外ボランティア演習」（演習、国際関係学メジャー必修科目、春学期、2 単位、14 名）

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（演習、春・秋学期各 2 単位、9 名）

「卒業研究」（演習、通年、4 単位、11 名）

2. 教育の理念

国際問題を学ぶ際には、当の問題を「他人事」で終わらせないことが大切だと常に意識している。国際問題に対し、傍観者としてではなく、当事者として問題克服への道筋を皆で一緒に考えなければならない。このことを学生諸君そして私自身が繰り返し自覚できる機会として、授業を活かしていきたい。たとえば、今年度上記科目にて学生諸君の関心を強く引きつけたもののひとつに、援助のアイロニーと呼べる事態がある。一例として、いわゆる第三世界向けの古着寄付があがる。状態の悪い服が、先進国市民から侮蔑的に送りつけられる一方、現地社会ではすでに古着量が過剰で、処分に困ったあげく不法投棄され環境問題も起こしている。こうした善意の押しつけと呼べる事態を筆頭に、国際協力・支援のもつ問題性を捉えることで、国際問題の実態を多面的に把握し、その上でよりよい国際関係構築を展望するための場となることが期待される。

3. 教育の方法

方法上の基本的なスタンスとしては、国際社会のダイナミズムを、続くコロナ社会でも理解できる環境の整備を意識している。

たとえば「国際 NGO の活動」や「海外ボランティア演習」では、ノート・テイキング用フォーマット・ファイル（pptx 形式）をエルキャンパスにて事前に配布し、活用を勧めている（強制とせず、任意活用と案内）。講義では、このフォーマットの完成版をスクリーンに映し（「国際 NGO の活動」はオンデマンド型なので、音声レクチャー付きコンテンツとして提供し）て、授業を進める。ノート・フォーマットは、スライド各所に伏字を設けて、それらにキーワードを充てることでノートを完成させることができるようになっている。スライド各部にて、YouTube 動画や関連ウェブサイトの URL を貼り付け、（持ち込み）端末にてクリック、タップなどして、ノート作成とともに各種情報を参照できるようにしている。出席者は、設けられた時間にてこれらコンテンツの視聴や閲覧をする。

このノート・フォーマットだが、予習読本も兼ねている。授業各回で当日 3 日前に配布しているが、その際に予習読本として事前の読み通しを要求している。またその際に出てきた質問・意見もメールにて受付けている。実際に質問などの反応もあり、授業当日に紹介し、質疑応答や意見交換、討論に活かしている。（「添付資料」にて一部を見本として提供したい。）

4. 教育の成果

「3.教育の方法」で取り上げた、ノート・フォーマットを用いた授業運営は、履修学生のあいだではおおむね好評である。事前に自らのスタンスについて考え、授業に望めているのではないかと考えている。3 の末尾にあげているが、履修学生から意見交換の話題が持ち込まれることがあり、意見交換や討論が大変盛り上がることもあった。本学学生諸君は、比較的内向的な者が多いというのがかねてよりいわれているところだが、私の担当科目の場合、留学生や外国出身学生が話題提供や意見表明を率先しておこない、それに応じて日本人学生も積極的に発言するなど、場の盛り上がりが何度もみられ、刺激に満ちた授業が具現している。

5. 改善への努力と今後の目標

「1.教育の責任」で示した科目「国際 NGO の活動」と「海外ボランティア演習」について、受講者数に着目したい。「海外ボランティア演習」では、関西圏に本部を構える NGO を訪問し、聞き取りをするなどのフィールドワークをおこなっている。いずれも NGO 活動にテ-

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：坂本 真司 作成日：2024 年 12 月 08 日

マが絞られ、専門性を強く帯びた内容である。だが、受講者数の差があまりにも大きい。ここから学生のあいだでは、学外実習への消極性が強いあるのでは、との見方が得られる。フィールドワークの愉しみをぜひとも味わってほしい。

【添付資料】

「国際 NGO の活動」第 8 回授業「持続可能なシステムの開発」ノート・フォーマット（ファイル名「no8_note_format」）

国際NGOの活動

担当：坂本真司

第8回 持続可能なシステムの開発

前回おさらい

前回第7回「小規模で自助的な地域開発」 NGO活動の第1の転機を理解

D・コーテンの学説から、NGOの活動方法の第2段階について把握

要点

NGOは、援助（aid）型活動が x x x x ・ x x x x をもたらすことを自覚

地域住民の「x x x x」を促す、支援の要素をもった活動方法論へ転換

地域住民の開発「x x」を促進

この段階をコーテンは「小規模で自助的な地域開発」段階と呼び評価

今回の目的

開発支援/開発協力へとNGO活動が変容してきた経緯を把握

参加型開発の問題点

第2段階「小規模で自助的な地域開発」の弱点を理解

第3段階への転換

コーテンの「持続可能なシステムの開発」について把握

マイクロクレジット

「持続可能なシステムの開発」の具体例から成果を把握

小規模で自助的な地域開発の課題

地域社会での **x x x x に無頓着**であった

権力を握る者が、開発援助を巧みに利用するケース現れる
利用とは？

弱者を強制的に開発に従事させ、収奪の機会を得る

例) フード・フォー・ワークの場合

現金給付の問題

特に問題なのは、x x x x x 間での権力の作用

問題の焦点：家族における男女関係 夫婦、親子、兄弟姉妹

貧困層女性が事業をとおして対価=賃金を得る

しかし女性が労働をとおして得た現金を男性親族が握る

x x x x の作用

年長男性親族が家族内での権限を掌握

フード・フォー・ワークは、工夫を凝らして運用しなければ、x x x x x
x x を維持・強化する温床となる

持続可能なシステムの開発

D・コーテン「**NGO戦略の3段階**」説

人道援助～開発援助～開発協力/開発支援へと重点が移動

第3段階：持続可能なシステムの開発

(sustainable systems development)

1970年代後半から1980年代以降

自助的な地域開発において、**x x x x すなわち x x x x に対応**

第2段階の欠点を克服

小規模で自助的な地域開発 政治的制度・政策の改変に関与できず

そこで

基本的な手法として **x x x x x x x 促進** を付加

x x x x x x x (advocacy) 権力者への異議申し立て

異議申し立てに参加するよう住民を促す

政治的 x x x x x x x を促す

マイクロクレジット

例) マイクロクレジット (Microcredit)

貧困層を対象に、小規模自営資金を無担保で貸し付ける事業
融資を受けた者は、スモールビジネスで得た儲けから返済をする

マイクロビジネス (Micro-business 小規模自営)

融資を得て貧困層は小規模ビジネスをする
たとえば 家畜の飼育と売買、雑貨店経営、行商を開く など

人間開発の顔

マイクロクレジット ただの「融資」事業ではない

その大きな役割 **人民の x x x**

NGO団体（融資する）側は、融資を受ける貧困層を組織化
ベンガル語でいう**ショミティ**（samity）方式

ショミティの意味

メンバーに貧困原因に対する理解を徹底化させる

「自己責任ではない」「搾取すなわち社会構造上の問題だ」

連帯性を育む

組織化は、状況を変えようとする意欲を互いに高めあう環境となる

ビジネスアイデアの源泉

組織化され、対話の機会が増えると、貧困原因の理解に加えて、どのようなビジネスが儲かるか、どうやればよいか、といったアイデアが得られやすい

マイクロクレジット **x x x x に関わる仕掛け備わる**

権力問題への挑戦

ジェンダー問題をはじめ権力問題に切り込む

例) **女性ショミティ**を結成させる

自信に基づくアドヴォカシーへの意欲

男性の収奪やハラスメント起これば、女性はショミティをとおして対抗

マイクロクレジットには

x x x x x x x にかかわる x x x x x x x 促す側面もつ

演習 ショミティの機能を動画を閲覧して理解

YouTubeにはいり、下の動画を閲覧

タイトル検索

「Women Borrowers at the Grameen Bank in Bangladesh」 (2:58)

<https://www.youtube.com/watch?v=Gl62TaJ85KY>

グラミン銀行

マイクロクレジットを普及させたのはバングラデシュの**グラミン銀行**

1983年に当時チッタゴン大学教授の経済学者ムハマド・ユヌス氏によって設立
非営利の無担保融資銀行

国が認めた公的銀行だが、貧困層女性の地位向上（すなわち公益）を目的にする
非営利銀行ということで、NGOの一種と解することができる

元来発展途上国では、政府系・民間の別なく銀行は、返済能力の乏しさから「信用
(credit)」できないとし、貧困層に融資をしなかった。この問題を乗り越える事業とし
て現れたのがマイクロクレジット

援助から支援への戦略変容

「授人以魚 不如授人以漁」

「貧者に魚を与えるな。魚の釣り方を教えよ」

しかし

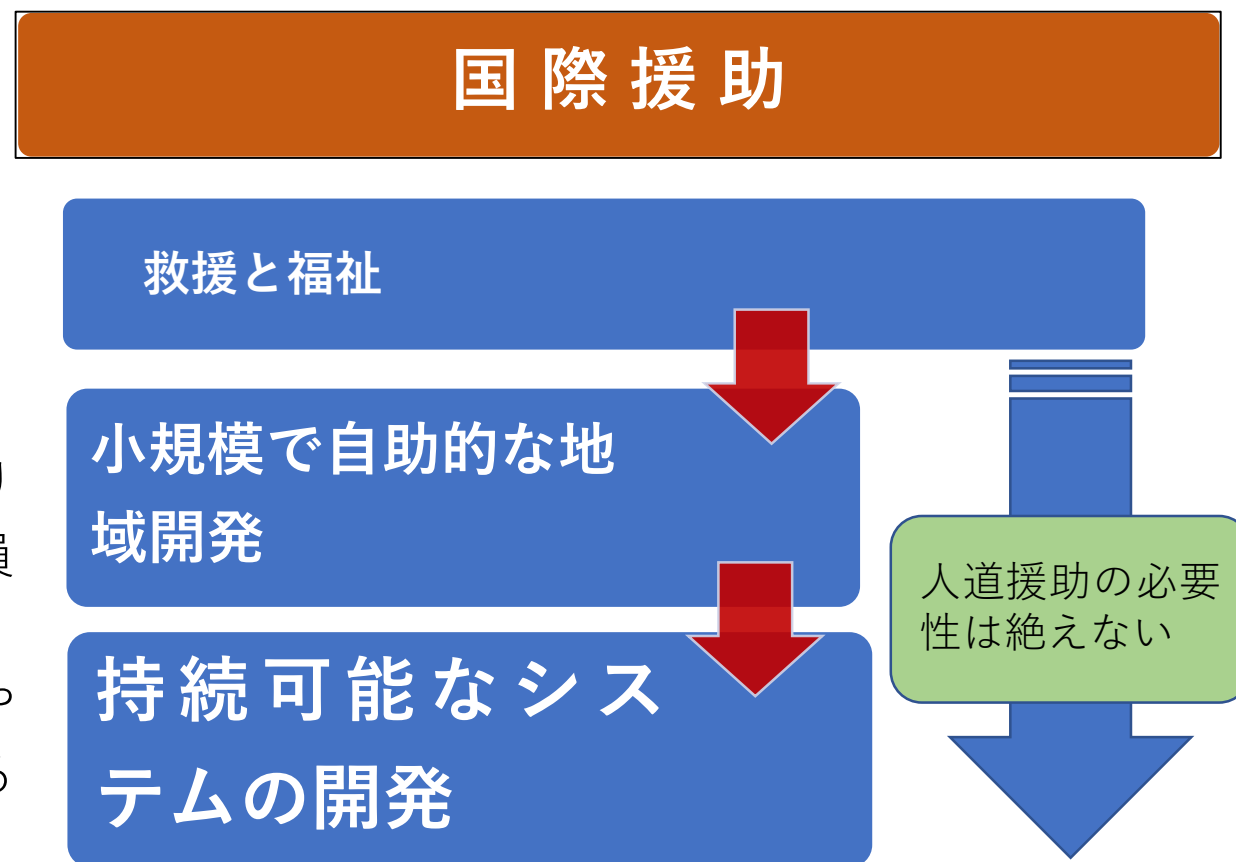
より根本的な次元で重要なのは

自助的活動を可能にする x x x x x

例) コメの共同生産組合

地主に高い小作料を支払って農地を借り、コメ作りをするくらいなら、共同で農地を買い上げ、組合員同士で共同作業をする方が有利だ。

しかしそもそも問題なのは、地主を優遇する法律や伝統的習慣ではないか。声をあげて制度を改変することが最も重要なことが多い。



次回は

次回第9回は「開発NGO」と題してお話します。次回から最終回まで授業は、分野別にNGO活動の成果と課題を理解するものとなります。その1回目として、開発に関わるNGOについてみてゆきます。